

CHANDLER LIMITED

TG MICROPHONE

TYPE L

USER MANUAL



(株) アンブレラカンパニー

www.umbrella-company.jp

* この取扱説明書は株式会社アンブレラカンパニーが正規に販売する製品専用のオリジナル制作物です。

無断での利用、配布、複製などを固く禁じます。

はじめに

TG Microphone Type L

CHANDLER LIMITED TG Microphone Type L をご購入いただきありがとうございます。あなたは今、EMI / Abbey Road Studios のオフィシャル機材を手に入れました。

“ステレオサウンドの父”である Alan Blumlein による 1930 年代の革新的で豊かなイノベーション、EMI 社のはじめてのリボンマイクロホン、そして“Blumlein テクニック”などからおよそ半世紀、Chandler Limited と Abbey Road Studios は 3 つ目の EMI オフィシャルのマイクを発表します。それが TG Microphone Type L です。

Chandler Limited の創設者でチーフデザイナーの Wade Goeke により設計された TG Microphone Type L は、TG Microphone のサウンドを継承した FET ソリッドステートコンデンサーマイクロホンです。

TG Microphone Type L は、TG Microphone のラージダイヤフラムカプセルや TG プリアンプ、そしてデュアルトーンシステムなどを継承しています。

一方で、TG Microphone Type L には個性的なサウンドを生み出す、特有のボイスिंगが施されています。

TG Microphone Type L は、究極のアナログサウンドの実現のため、電子部品はスルーホール実装にて設計され、アメリカ・アイオワ州の Shell Rock にある Chandler Limited により丁寧にハンドメイドされています。

Type L はマイクロホン本体に加え、スイベルマウントマイクホルダー、専用のマイクボックスが付属します。

Chandler Limited はアメリカ製の製品に誇りを持っています。気に入っていただけたなら嬉しいです！

History

1967年、Abbey Road と EMI Central Research Laboratories チームが出会ったことにより、Abbey Road Studios の TG12345 Mark I コンソールのサウンドと柔軟性に大きな変化をもたらしました。

1968年の11月に Abbey Road Studio の第2スタジオにインストールされ、Shadows の8トラックレコーディングにて初めて使用された新しいトランジスタ/ソリッドステートのコンソールは、初期の REDD 真空管コンソールから飛躍的に進歩しました。

EMI TG12345 コンソールは、The Beatles のラストアルバムであり、初期の作品より著しくリッチなサウンドになった“Abbey Road”のサウンドシェイプに大きく関わっています。“Here Comes the Sun”, “Come Together”, そして“Something”などのサウンドは、EMI TG12345 無しでは大きく違うものになっていたでしょう。

そして TG12345 コンソールのテクノロジーから、テープからディスクへの転送時やディスクのカッティング時のマスタリングコンソールとして、その他テープ間の転送に関する様々な要望から、今では伝説となっている EMI TG12410 トランスファーコンソールが誕生します。

現在でも EMI/Abbey Road Studios で使用されており、EMI TG12410 トランスファーコンソールとそのサウンドは一般に公開される事はありません。



クイックスタート

接続と電源

1. Type L は 48V ファンタム電源の使用が必要です。

注意 : Type L を接続する際は、マイクプリアンプの 48V ファンタム電源は OFF の状態で行ってください。

2. 通常の XLR マイクケーブルで Type L とマイクプリアンプを接続してください。

NOTE : 2 ピンがホットです。



MALE



FEMALE

WIRING LEGEND	
1	SHIELD / GROUND
2	POSITIVE
3	NEGATIVE

3. Type L とマイクプリアンプの接続を確認し、48V ファンタム電源を ON にしてください。

NOTE : Type L の出カインピーダンスは 200 オームです。

ウォームアップ

最適なパフォーマンスを得るために、3-5 分ほど電源を入れてウォームアップすることを推奨します。

電源を切る

Type L とプリアンプを繋ぐ XLR ケーブルを外す前に、48V ファンタム電源を OFF してください。

NOTE : 48V ファンタム電源を切った後、数分おいてからケーブルを抜くことをおすすめします。

操作方法

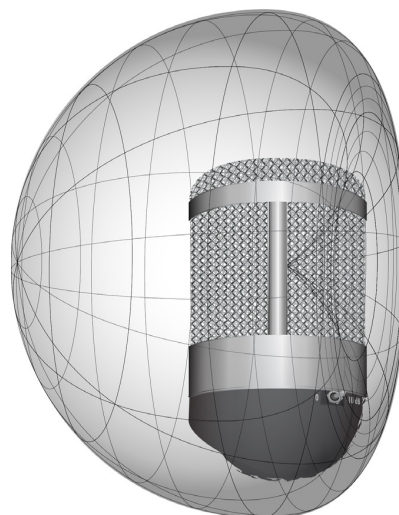
指向性パターン

Type L の指向特性はカーディオイドです。

単一指向性で、マイクの前面からのサウンドに対し感度が高く、側面と背面の感度は低下します。

NOTE : 一般的にカーディオイドでは近接効果が発生します。
サウンドソースがマイクに近いほどローエンドが強調されます

TIP : アコースティックギターなどサウンドソースの近くにマイクを配置する必要がある、または小規模な環境で近接効果が発生してしまう場合、過剰に低域が録音されることがあります。その際はローカットやランブルフィルターをお試しください。



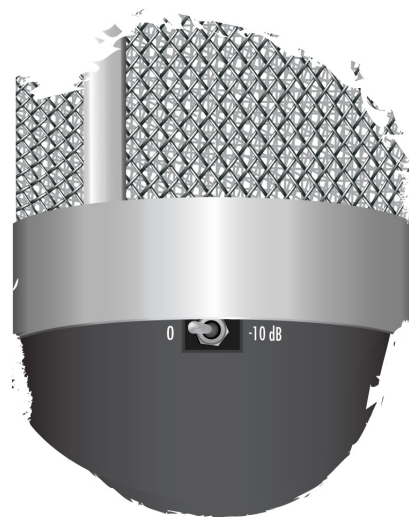
Q CARDIOID

Pad

マイク背面、グリルの下にある Pad のトグルスイッチで、マイクの入力感度を 10dB 下げる事ができます。

パッドはスイッチを-10dB 側にするとオンになります。

TIP:キックドラム、ベース、エレキギターのキャビネットなど、高い SPL のサウンドソースによってカプセルに大きな入力が見込まれる場合は、パッドを使用してください。



デュアルトーンシステム

マイク背面、グリルの下にデュアルトーンシステムが搭載されています。トグルスイッチで A または B の 2 つのオプションを選ぶことができます。

System A と B は、マイクのインプット構造を変化させ、音源やキャプチャーした音のキャラクターに影響を与えます。

System A:

リッチなハーモニクスが特徴で、よりストレートでまさに TG プリアンプといったキャラクターです。様々なソースに適しており、System B よりも比較的色彩付けが強いです。

System B

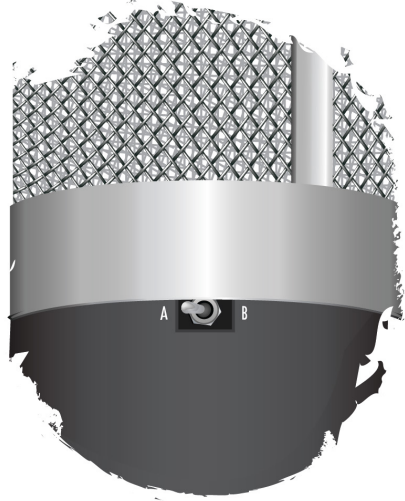
System A よりクリーンで、リボンマイクのような音質が特徴です。System B は約 6dB 低いレベルで動作します。

System B とパッドが有効であれば、極端に高い SPL の音源にも使用する事が可能です。

TIP : パッドを用いれば、System A,B 共に大音量のソースを扱うことが可能です。しかし、パッドを使用しても System A が許容する音量を超えている場合は、System B でパッドを使用してください。

System B は極端に高い SPL の音源はもちろん、ボーカルやアコースティックギターなど、比較的 SPL の低いものを含むあらゆる音源に使用できます。

TIP : アコースティックギターやエレキギターなどをダブリングする際に、System A と B の両方を用いることで興味深いサウンドを作ることができます。ダブリングしたパートを左右に強くパンすることで、最大の効果を得ることができます。



メンテナンス

保管方法

TG Microphone Type L を長時間使用しない場合は、付属のダストカバーと専用ケースにマイクを収納してください。マイクは常に室温環境で保管してください。

NOTE: 頻繁に使用するなどの理由から、マイクを外に出しておく場合でも、付属のダストカバーを使用しカプセルを保護してください。

